

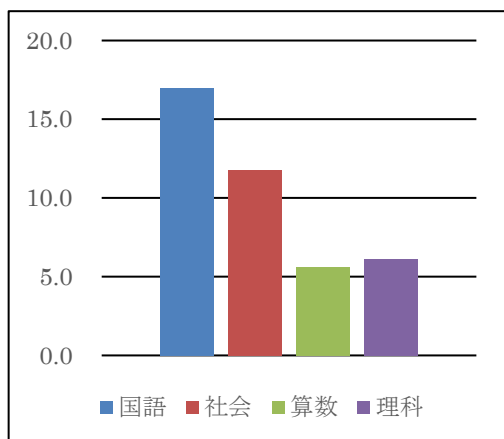


令和2年度 秋田県学習状況調査の結果について

秋田県教育委員会では、昨年12月3日に「学習状況調査」を行いました。全県の5・6年生が国語・社会・算数・理科の4教科、4年生が国語・算数・理科の3教科について、これまでの学習がどの程度定着しているかを見る調査問題に取り組みました。また、学習や生活、地域社会への関心、自分自身のことなどについて問う質問紙にも回答しました。

本校児童の各学年平均正答率などから読み取れる学習状況の傾向をお知らせします。なお、一人一人には個人カードを渡して結果をお知らせします。個人によって差がありますので、個々の状況に応じた指導をしていくことが大切です。学年平均から読み取ることができる全体的な傾向と個人の結果とを併せてとらえ、これからの指導の工夫改善に努めてまいります。

グラフは、秋田県と千畑小との平均正答率の違いを表したものです。



<6年生>

◆学習状況について

【国語】全体的に正答率が高く、県平均を大きく上回る良好な状態です。特に、漢字を正しく書いたり使ったりする力はしっかりと身に付いています。慣用句の意味と使い方の理解や、「読むこと」において、登場人物の関係や心情を描写に基づいて捉えたり、表現の効果を考えたりする力を高めることができれば、さらに理解が深まります。

【社会】全体的に正答率が高く、県平均を大きく上回る良好な状態と言えます。我が国の工業について、資料から読み取ったことを関連付けて考察し表現する設問や、国会、内

閣、裁判所の相互の関連、国や地方公共団体の政治の取組について、資料から読み取ったり考察したりする設問では、正答率がやや低い傾向が見られます。

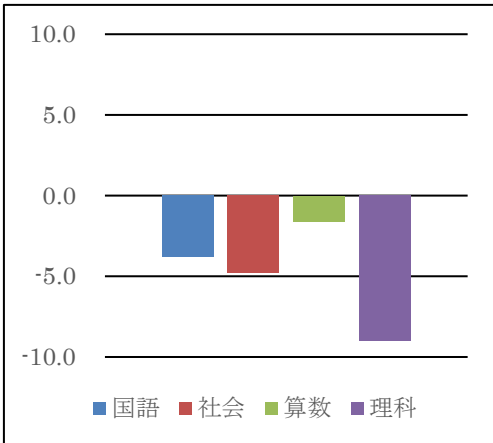
【算数】全体的に正答率は高く、図形や数量の変化の関係の領域はよい結果となっています。数と計算の領域において、基準量を求めるために除法を用いたり、具体的な事象で数量の関係をとらえて立式したりすること、また、データを活用し、グラフからよみとって判断し理由を説明する設問では、さらに力を高めていく必要があります。

【理科】全体的に正答率が高く、良好な状態と言えます。これまでの学習について、知識や技能はよく身に付いています。物質やエネルギーに関する分野で、電磁石の性質と身の回りでの利用を関係付けて考えたり、一定量の物を溶かすための水の量と温度を考えたりする設問、気体の捕集に関する知識、酸素の量と物を燃やす働きを関係付けて気体の性質を考察し表現する設問では課題が見られます。

◆質問紙から

- ・「勉強が好きだ」という割合が非常に高く、それぞれの教科においても高い割合となっています。「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」という項目なども高く、物事に前向きに、意欲的に取り組んでいる様子が見られます。家庭での学習にもとてもよく取り組んでいます。唯一、本を読む冊数が少ない傾向が見られますが、本の内容や時間の確保の仕方などに焦点をあてて、取組を促していきたいものです。

<5年生>



◆学習状況について

【国語】漢字を書くこと、話し合いの仕方について考える設問、決められた内容と字数で作文する設問では、力を発揮しました。しかし、全体的に正答率が低い傾向にあります。特に主語と述語の関係、慣用句の意味と使い方については、さらに理解を深める必要があります。また、「読むこと」において、書き手の論の進め方について考える設問でも正答率が低くなりました。

【社会】全体的に正答率が低い傾向にあります。秋田県の交通の広がりや、地域の発展に尽くした先人の働きについては、よく理解できています。しかし、公共施設の役割について理解し知識を身に付けることや、農業が自然環境と深い関

わりをもって営まれていることについて考えたり、レタスの出荷時期が地域によって違いがあることに着目して問題を考えたりする設問では課題が見られました。

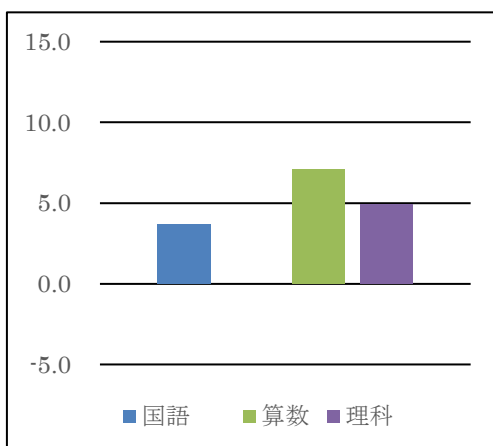
【算数】全体的には県平均に近い正答率となりました。数と計算の領域における概数で表した整数の範囲、小数の乗法、3位数を1位数で割る計算などでは力を発揮しました。しかし、基準量を求めるために除法を用いること、小数の位取りの表し方、合同な三角形をかくために必要が条件について考える設問では、正答率が低く課題があります。

【理科】全体的に県平均よりも正答率が低くなっています。閉じ込めた空気を圧したときの力に関する考察は力を発揮しましたが、金属・水・空気の温度による体積の変化、金属の熱の伝わり方、雲の量と天気、デンプンの性質、メダカの雌雄の体の形状の違いなどに関する設問では課題が見られます。

◆質問紙から

・「勉強が好きだ」という項目や読書への取組の割合が低く、休日には長時間学習に取り組んでいます。平日に家庭で1時間以上学習に取り組んでいる子供の割合は少なくなっています。「自分にはよいところがある」、勉強の大切さについての項目も低くなっており、自己肯定感や学習への意欲を高める手立てを講じる必要があります。

<4年生>



◆学習状況について

【国語】全体的に正答率が高く、県平均を上回る良好な結果となっています。「読むこと」について、登場人物の行動や気持ちを叙述を基に捉えたり、気持ちの変化を場面の移り変わり結びつけて想像したりすることは力を高めていく必要があります。

【算数】県平均を上回る高い正答率となりました。数量の関係を捉えて倍の計算に乘法を用いること、図形の領域で 180° より大きい角度を求めること、グラフと示された情報を関連付けて考えることなどで課題が見られます。

【理科】良好な結果で力を発揮しました。人の体の動きと筋肉の働きの関係、気温の変化と天気の関係について考察し表

現する設問では、定着率がやや低く高めていく必要があります。

◆質問紙から

・「勉強が好きだ」という割合が高く、学習に対する意欲も高い割合となっています。しかし、家庭での学習時間は短い児童が多いようです。また、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」という項目が低い傾向にあり、自己肯定感を高める手立てを講じる必要があります。